

日 時： 令和元年7月12日（金）18時30分～19時30分

場 所： 校長室

出席者： 委 員 森田 英嗣（大阪教育大学理事・副学長）
新崎 国広（大阪教育大学教授）
竹村 伍郎（NPO法人 まち・すまいづくり理事長）
浅田 千鶴（同窓会副会長）
中川 哲也（元PTA会長）
高谷 実穂（現PTA会長）

事務局 山崎 晃昭（校長）、藤原 隆志（教頭）、山崎 義文（事務長）、伊勢田 佳典（首席）、
山口 優（首席）、堀達夫（記録係）

I. 挨拶

① 校長より

- ・あいさつ
- ・現PTA会長高谷実穂氏に本協議会の委員を委嘱

II. 学校からの説明・報告

①平成31年度「学校経営計画」の進捗状況等について

ア)中期的目標－1「確かな学力を踏まえつつ、高い志を育み、進路実現をめざす取り組みの推進」

・(1)－ア「魅力ある授業の実施」について

新学習指導要領の2022年度実施に向け、本年度よりプロジェクト・チームを立ち上げ、教育課程の編成にあたる。

・(1)－イ「講習・補習の充実」

講習は早朝、放課後に加え、長期休業中にも多数の講座を設けている。受講者は多数。

・(1)－ウ「英語運用能力の向上」については、JSTからの予算削減があったが、同窓会やPTA後援会の支援を得て、例年通りのKITEC（ネイティブスピーカーの方々を多数招聘し、少人数に分かれて一日英語漬けで会話能力の向上をめざす企画）を実施できる運びとなった。海外語学研修はオーストラリアのキャンベラ大学附属高校とキャンベラ・ガールズ・グラマー・スクールで実施。出発は今月下旬。

・(2)－ア「課題探究講座」については、1年次よりプログラム化し、2年次の本格実施に対応できる体制を組んでいる。本年度より2年生がすべて文理学科となったため、2年生全員が課題研究を行う。

・(2)－イ及びウの学外組織団体との連携事業については、参加者数を高いまま維持することを目標にしている。7月26日～29日には、本校主催で「東アジア高校生環境フォーラム」を実施する。これには国内の連携校の生徒に加え、台湾の高校2校の生徒、韓国の高3校の生徒が参加して河川調査を行う予定。

12月には本校生が台湾へ赴き、現地の高校2校と河川調査を共同で行うことが決まっている。スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の予算が減額されたことから、国内のサイエンス研修の一部を実施できなくなったのは残念である。

・(3)－ア「自己実現に向けた体験型進路学習の充実」については、第1学年の生徒が職場訪問を実施し、来週、プレゼンテーションを行う予定。

イ)中期的目標－2「スクールアイデンティティに基づく豊かな心の育みと規律・規範の確立」について

・遅刻生徒の延べ数を減らすことを目標にしている。

・今年度のクラブ加入率についても、高い数字を維持できていると想像する。全国レベルの大会へはワンダーフォーゲル部とアンサンブル部の出場が決まっている。

III. 質疑応答

Q1：中期的目標(1)－イに大学進学実績の数値目標の達成プロセスにおいて、民間の全国規模の模擬試験や学校の実力テストはどう活用されているのか。

A1：毎年、校内の実力テスト結果から詳細な資料を作成し、偏差値から合格可能性をはかれるようにしている。全国規模の模擬試験の長所は、受験時の自分の位置を測定し、合格するためにこれから何をすべきかという目標設定ができる点である。合格判定のランクに一喜一憂する必要はないと生徒には説明している。一般に、現役生徒はセンター試験後に伸びるので、簡単にあきらめさせない指導を心がけている。

Q2：学校経営計画の中には、難関国立大学への進学者数のように「上昇させる」ことを目標にしている項目と課題研究発表会のように「維持する」ことが目的となっているものが、バランス良く並んでいるのはメリハリがあって良いと思う。目標を「上昇させる」と「維持する」に何を根拠に分けているのか。

A2：アンケート結果などに基づいて分けている。

Q3：多様な取り組みがなされているが、同時に働き方改革が求められている今、保護者・同窓会にできる支援にはどんなものがあるだろうか。できる範囲で協力したいと考えている。

A3：① 上記Ⅱで遅刻指導に取り組んでいることを報告したが、家庭の協力をお願いしたい。

② ある府立高校では、中学三年生とその保護者対象の説明会において、現役の高校生の保護者が質疑に対応していると聞く。本校でも同様の企画を実施することになれば、支えていただきたい。

Q4：SSH予算の削減から、実施できない企画があるとの報告があった。日本には寄附文化が根付いていないが、寄附という行為はされる側だけではなく、する側にも利がある。その受け皿となる法人を作るなど、検討してはどうか。

A4：学校自体が資金を稼ぐことはできないので、学校が教育計画の問題点や課題を整理し、学校教育を公費でまかなうのが本来であると考えている。その上で、経済的な支援につながることは、同窓会やPTAにお願いするしかないと考えている。

その他1：同窓会は今後も資金面での支援を存続していくが、資金以外にも知恵・経験・人脈などのリソースを持っており、現役生に活用して欲しい。

その他2：中期的目標1-(3)アにある大学研究室訪問で大阪教育大学に来た生徒複数名が実際に受験し、生き生きとした学生生活を送っている。大学研究室訪問は高校生にとっても研究室の大学生にとっても、プラスとなる行事となっている。

IV. その他

- ・来年度来年度使用教科書選定・採択一覧表の提示
- ・今後の学校運営協議会については決定次第連絡。大まかな予定は以下の通り
 - 第2回：令和元年12月下旬
 - 第3回：令和2年 3月下旬